

実践報告

教室で演じる, 遊ぶ

「特別活動の研究(小)」15年夏集中授業報告

Performing in Classwork

A Report on a "Tokkatsu" Summer Condensed Course in 2015

新井 朋重

Tomoe ARAI

Key words :

1 はじめに

本報告は, 2015年夏に実施した2回の集中授業(第1回8月1, 3, 4日受講57名, 第二回8月6~8日受講78名)の概略である。

「特別活動の研究(中高)」の講座を担当していた関係もあり, 私は, 15年4月上旬, 同年前期「特別活動の研究(小)」の担当を(教育学科内の事情により)緊急に引き受けた。

「特別活動の研究(小)」は, 本来なら通常通り4月から実施すべきだったが, すでに最初の授業が始まる週をむかえていた。何の準備もなく開始するわけにもいかず, やむをえず, この講座を夏の三日間集中授業に変更したのである。

週一回で7月には終了するはずの本授業が夏休み実施へと変更になったわけで, 受講生にとっては大変な迷惑であったに違いない。だが, 真夏の本授業にはほとんどの受講登録者が参加してくれた。感謝。

2 授業¹⁾の基本枠組み

① “身体丸ごと”で参加する授業

「特別活動研究の授業は, 身体をつかい, 感じ, 考える, まるで体育のような授業である」と, 授業オリエンテーション時, 毎回私は, 表明している。

1) 本報告では, 「特別活動の研究(中高)」を平常授業, 15年夏の「特別活動の研究(小)」集中授業を本授業, 両者ともにさす場合を授業, と使い分ける。

同時に, 「この授業の場を, 大学での特別活動のようになる。そのような特別活動的活動を展開する。その中で, 特別活動について, 身体を介し感じ, 考える。そのようにして特別活動を研究するのだ」, とも説明している。

“身体丸ごと”, つまりは体験型あるいは参加型ともいえるような授業であることを彼らにつたえているのである。

教室で, 特別活動的活動を体験する。その体験の中で, それぞれが, 自身が過去に体験した特別活動の実際を皮膚感覚レベルで思い起こす。この活動が過去のそれぞれの被教育体験と呼応し, そこから自身の被教育体験の相対化, 特別活動の相対化の機会が生まれる, かもしれない。このような希望を私は授業の中に思い描いている。²⁾

2) 私が, このような形態の授業を志したのは, およそ9年前。埼玉大学での「特別活動論」担当を機に現在の方向を試行し始める。その時, 重要なヒントを与えてくれたのが, 唐十郎の実践記, 彼の大学での立ち居振る舞いである。教室に“紅テント”的時空が生みだされていくような唐の講義, 彼のアクションが強力な渦を巻き起こし, 虚構なる“特別の場”と化す教室。私は, この唐の“特別の場”化に共鳴し, このような“特別の場”が特別活動授業の教室にも生みだし得ると判断。そのような場が生みだしえる授業枠組み(フレーム)を模索, 試行錯誤を重ね, 現在に至っている。本学での授業もまたこの試行線上にある。(唐十郎・室井尚「教室を路地に! 横浜国大VS紅テント2739日」岩波書店2005年)

② 学習指導要領から考える

大学教職課程科目としての授業である以上、当然ながら、その内容は学習指導要領をふまえる必要があるし、文科省『学習指導要領解説特別活動編』（以下、「解説」と略記）を熟読吟味する必要もある。

私が担当する授業では、それゆえ、この「解説」の読み込みから授業をスタートする。中でも重視しているのが「目標」であり、「特別活動の基本的な性格と教育的意義」である。ここには特別活動の基本枠組みが表明されており、そしてそれはまた、私の授業の基本枠組みとも重なっているからである。

「目標」の「解説」では、「望ましい集団活動」が特別活動の「特質」であり、「方法原理」とであると強調されている。また、特別活動の「教育的意義」は、その第一が「集団活動を特質とすること」であり、第二が「集団による実践的な活動を特質とする」ともいう。この第二には、「[なすことによって学ぶ]³⁾を方法原理とする必要がある」と強調している。

ここから私は、平行的に、授業の特質、方法原理をも説明し、私の授業の基本枠組みは「解説」を土台にしているのだ、と受講生に説明している。⁴⁾

私は、班という小集団を授業に導入する。班を基礎に、さまざまな集団活動を展開する。「実践的な活動」の具体化が、班を基礎とするさまざまな集団活動の展開であり、それが特別活動的活動の具体である、と私は受講生に説明しているのである。⁵⁾

③ 遊びの導入について

学校という場では、遊びと生活が、さまざまな層で、相互に競り合い、格闘している。その末に、遊びが疎んじられ、否定され、生活が正統の座にすわる。学校には

そのような力学が働いている。

特別活動もその例外ではない。いや、特別活動においてこそ特に、特別活動の中にある遊び性は疎んじられ、否定されるかのように扱われている。遊びは、学校生活の中で不要であるかのような扱いを受ける。

しかしなお、特別活動という領域には遊び的活動が色濃く存在する。しかもこの性質を除去するほどに特別活動の実際がひからびていく。そのような関係が遊びと特別活動との間にはある。

授業ではこの、遊びから、特別活動を照射する。遊びを中心に据えた特別活動的活動を展開し、その体験を介し、遊びと、特別活動の関係性を検証する。特別活動の持つ意味を、可能性を探求する。そのような意図が、問いかけの枠組みが、授業の土台にはある。⁶⁾

もちろんのこと、このような枠組みの授業づくりもまだ道半ば。本レポートはその途中報告である。⁷⁾

④ 短期集中型であることの意義

四ヶ月間展開する平常授業と、今回のような短期集中型の本授業では、内容に大きな違いが生まれる。四ヶ月という時間をかけるからこそ生みだされるものもあり、それをこの短期集中型の本授業に望むことはできない。逆に、短期集中型だからこそできること、可能なこともあるにちがいない。さて、それはどのように可能か、その試行もまた本授業の土台にはある。

3 本授業の構成

オリエンテーションでは、レジュメ1、2を配布し、3日間の授業構成の概略、各課題の内容、評価の基準などを示した。以下がその内容である。

- 3) 「なすことによって学ぶ」は、1951年学習指導要領一般編（試案）以来、学習指導要領の中で一貫し使用され続けてきた用語である。またこの用語は、デューイ夫人が日比裕に語ったとされるように（杉浦宏編『日本の戦後教育とデューイ』世界思想社、1998年）、デューイ教育思想の中心を示す用語である。私の授業実践もまたささやかながら、この用語への応答的な一つの試みである。
- 4) 文部科学省『小学校学習指導要領解説特別活動編』、同『中学校学習指導要領解説特別活動編』、同『高等学校学習指導要領解説特別活動編』のいずれにおいても、「特別活動の目標」および「特別活動の基本的な性格と教育的意義」に同様の記述がある。
- 5) 班編成後、私は、「集団、この良きものではない。この煩わしきものよ、なのだ」と必ず付け加える。それでも、特別活動は「望ましい集団活動をめざす。教師も、生徒も、この矛盾の中を生きる。それが特別活動なのだ、とも付け加える。

6) カイヨワによる遊びの定義は、独自の「約束事に従う」、「あらかじめ決められた明確な空間と時間の範囲内に制限されている」、「虚構の活動」で、「自由な活動」であり、また、「非生産的」で、「未確定の活動」でもある。この定義には学校生活における特別活動のありようを規定していると考えても良さそうな項目が散見されている。この遊びの定義から、それぞれの特別活動の具体的なありようを検討のメスを入れると特別活動の具体はどう見えてくるか、これも授業の根底にある私の研究視座の一つである。

(カイヨワ著多田・塚崎訳『遊びと人間』講談社学術文庫1990)

7) 私が担当する平常授業も同様の土台の上に構想されている。だから共通する箇所も少なからずある。(例えば「遊び」の扱い、「班で論文を読む」、「実践記録を読む」などである)。だが今回の本授業で独自に取り扱ったものも少なくない。演劇を取り入れたこと、「お別れの会」の企画および実施などがその主なものである。

<レジュメ・1>

第1日⁸⁾

- 1: オリエンテーション+ 講義1⁹⁾
- 2: 班づくり,
- 3: 講義2, 斎藤喜博を読む, 台本分担, 班活動¹⁰⁾
- 4: 島小実践を“演じる”

第2日

- 1: プレゼン+ 日程分担決め,
- 2: 実践記録を読む① (改良)¹¹⁾
- 3: 実践記録を読む② (改良)
- 4: 遊び (演習) ①

第3日

- 1: 班で矢野論文を読む¹²⁾
- 2: 遊び (演習) ②
- 3: お別れ会
- 4: テスト (課題2作成)

<課題1の内容>

- ①この教室での遊び二つ (グループ対抗・全員)。
内容, 方法, 留意点等, 説明したものを作成, 提出。

-
- 8) 本授業は通常通りの時程で90分×4コマである。授業内容の配置は午前中に講義形式のもの, あるいは実践記録や論文を読む内容のものを配置し, 午後にはアクティブなものを配置しよう心がけた。
- 9) 主な配布資料は以下の通り。
- ・小学校学習指導要領第6章特別活動 (「解説」p132~133), 「特別活動の目標」(同p8~11), 「特別活動の基本的性格と教育的意義」(同p15~21), 「学級活動」(同p32~35), 「児童会活動」(同p64~65), 「クラブ活動」(同p76~77), 「学校行事」(同p88~89)
 - ・『社会学事典』(縮刷版, 弘文堂1994年)より引用。「集団」, 「機能的集団」, 「基礎的集団」, 「遊び」, 「祭」
 - ・『教育用語辞典』(ミネルヴァ書房2003年)より引用。「やまびこ学校」, 「為すことによって学ぶ」, 「生活綴り方教育」, 「生活指導」
- 10) 使用した資料は以下の通り。
- ・斎藤喜博「教育の演出」, 同「行事での演出」。
 - ・島小での野外劇「風の三郎」,
 - ・昭和30年3月卒業式「呼びかけ「おめでとう, 六年生」」,
 - ・昭和33年3月「卒業式呼びかけ台本「おめでとう六年生」。(『斎藤喜博全集5』国土社1970年 p7~11, p82~83, p110~115, p138~161)。
- 11) 扱った実践記録は以下の通り。
- ・森敦「みんなからの力で育ち合う」(雑誌『生活指導』明治図書2006年)
 - ・牧野幸「子ども主役の卒業式に」(雑誌『生活指導』明治図書2008年)
 - ・秋桜佑子「みんなでクラスをつくっていこう」(雑誌『生活指導』明治図書2008年)
- 12) 使用した論文は矢野智司「生成と発達の場としての学校」。(同『贈与と交換の教育学』漱石, 賢治と純粋贈与のレッスン |』東京大学出版会2008年第9章p196~221)

- ②第3日3限実施「お別れ会90分」案 (コンセプト, 概要等) を作成, 提出。

- ・時間配分: 担当班一任 (例: 準備40分, 本番50分)
 - ・企画案に入れるべき条件
 - ①自分たちの遊びも入れること。
 - ②受講している全員が (個々に, あるいは班ごとに) 登場する場面があること。
- 例: 再現「風の三郎」or「島小の卒業式」, 班対抗パフォーマンス大会 (ダンス, 寸劇, 歌, 群読, 構成詩, 全員のスピーチ) 等

<課題2の内容>

「本授業で実施した劇, 遊び, お別れ会, 読んだ実践記録などを題材に, 特別活動 (行事等) の持つ意味あるいは可能性, そこでの教師の指導のありようについて論述する。字数はおおよそ1200~1600字とし, 本授業で配布した資料も可能な範囲で利用すること」(持ち込み可)

[評価方法]

- ①全出席前提, ②課題1 (内容+プレ+実施): 60%
 - ③課題2: 40%
- ※出欠確認は毎時実施する予定。

<レジュメ・2>

第一日第1限の内容詳細

- 1) ガイダンス
 - ・時程および個々の内容
 - ・評価方法説明
- 2) 講義1

- ①生活の持つ形成作用
- ②学習指導要領を読む

第2限

- : ①班づくり
- ・班名簿確認, 班の人数, 男女バランス等微調整
 - ・班活動 (自己紹介, 名前覚え, 確認等)
 - ・課題1の再確認, 模擬演習
 - ・班長, 司会, 記録者, それぞれの仕事内容
 - ・班長選出, 司会, 記録当番表の作成 (班袋の使用法も)
- ※班長の仕事: 時間ごと, 班メンバーの確認, 司会者, 記録者の確認。(司会者, 記録者は毎回交代)

第3限

- 1) 講義2
 - ①「形成」・「生活指導」・「生活綴り方運動」
 - ・「やまびこ学校」

②斎藤喜博「教師の演出」・「行事での演出」

2) 鳥小実践, 実演のための班役割分担

<野外劇> 「風の三郎」

班分担: 4班

A 全体指揮, 場面の状況朗読, 説明, 語り手

B 鬼の大將, 鬼たち, あまのじゃく

C 村人, 亜子, 爺っこ

D 風の三郎, 風

<卒業式再演> 第1回: 「昭和30年3月卒業式」

第2回: 「昭和33年3月卒業式」

班分担: 4班

A 全体指揮, 先生, 説明文朗読

B 保護者 C 6年生 D 下級生

(曲不明の歌は群読風にすると良い。)

第4限: 練習30分 実演: 各コース20分目安

4 展開された実際

<第一日>

① 第1限: 講義形式。

・3日間のオリエンテーション

・「特別活動の目標」及び「特別活動の基本的性格と教育的意義」を中心とした『解説』の読み込みと解説。

・特別活動の特質である「集団活動」, および「なすことにより学ぶ」をより深めるために社会学事典からの引用を補助に解説。

・教科外活動史の概略を解説したが, 時間の関係もあり, かなり乱暴な講義となってしまふ。

②第2限: 事前に作成した班名簿を発表。男女比, 学籍番号をてがかりに知り合いが固まらぬ等の配慮。

班の数は第1回, 2回とも8班集体。

班編成後, 遊びをとりいれ, 班内の相互理解を深める活動を展開。同時に班内の役割分担(班内の司会担当, 記録担当)も決める。

③第3, 4限: 資料斎藤喜博「教育での演出について」, 「行事での演出」を題材に鳥小実践を紹介。

レジュメ2の分担表に沿い, 班ごとの役割分担も決める。

以後, その役割に沿い班内の分担も決められ, 班内演技づくりへと移る。途中休憩を含み, 各班の練習は続けられ, その後, 合同練習へと移る。

教室を, 移動黒板で分断し, それぞれの演技練習場とする。それぞれは, 全体指揮担当班が中心となり合同練習を始める。

踊りかたや歩き方, あるいは発声の仕方の工夫など, その都度相談しあいながら通し演技が繰り返される。教室は, 徐々に熱気を帯びてくる。

パフォーマンス溢れる場の出現, とでも言いたくなるような, 楽しい雰囲気教室内に満ちてくる。¹³⁾

授業時間終了1時間前, 上演スタート。

演技のないチームが教室の片側で観客となり, それぞれの演目が演じられる。¹⁴⁾

<第二日>

①第1限: 自身が考えてきた課題1を班内で発表, 実演を交えつつ, 班の出し物2種の遊びを選定。また, 「お別れ会」企画も班内で紹介。その中から班代表企画を選定。

②その後, 各班は, 選定した班代表企画や遊びの内容の改良を, 実演を交えながら, 展開する。

(班ごとに適宜休憩を取りながらの作業)

・各班が「お別れ会企画」を発表し, 「お別れ会」担当班決定へとすすむ。

・外れた他の班が, 第二日4限3班×20分, 第3日4班×20分のそれぞれの担当になる。

③第2限, 第3限「実践記録を読む」

担任教師の指導に焦点を当て, その指導のありように対する感想や意見を班内で話し合い, その要点を班ごとに板書, 全体発表, 質疑へ, の流れで「実践記録を読む」は展開された。

④第4限, 3限につづいて各班準備, 改良。後, それぞれの担当班による遊びが展開される。

<第三日>

①第1限: 矢野論文を読む。

まず私が, 「本論文では, 学校行事や特別活動の時間が, 生成の可能性に拓かれている」と指摘して

13) ロイス・ホルツマン著茂呂雄二訳『遊ぶヴィゴツキー生成の心理学へ』新曜社2014年)。この著作は, 授業の振り返りに大変役立った。パフォーマンスという用語もまた, この振り返りの中で私の授業の核心を表す一つの用語であると考えに至った。ホルツマンらは, 「ヴィゴツキーが頭一つの背伸び」と記述するものを「これを演劇的な意味で, パフォーマンスと呼んでいる」と述べる。この著作の内容と授業での私のさまざまな発見とが重なり合い, 交流し合うような感触を私はこの著作から受けた。

14) 感想文の中で, 50・0男が「印象に残ったのは初日の演劇です。ここからこの全班の結束がより強くなったと感じました。」と記しているが, 私も同感である。初日のこの演劇を創り演じる活動が, 教室全体の雰囲気を変えた。教室の空気が明るいトーンを醸し出すようになり, 本授業の駆動力もまた大きくなったような気配を, 私も感じていた。

いることを紹介し、同時に、以下のテーマで矢野論文を読むことを指示する。

「生成の体験とはどのような体験か。矢野論文を手がかりにその具体例を挙げ、説明せよ。」

すでに第一日目に班内で論文の部分読み分担が決められており、それをもとに班内の話し合いが展開された。

彼らの感想文の中に「生成」という用語が散見されるのはこのためである。

約1時間の班内読み、その後全体発表、班相互の討論、個人の発言へと移る。最初はかなり苦戦しているようであったが、徐々に班での話し合いが活発化していく。

②第2限は4班×20分、担当班の指導による遊び。

第3限は運営担当班が司会となり、同時に遊びの指導者ともなり、全体を運営していく形式でお別れ会が展開される。

第4限の小論文作成では、当然ながら、直前に読んだ矢野論文の影響が強く感じられる論調が多くみられた。

5 受講生の感想文

以下の感想文は集中授業第1回受講57名全員のものである。

感想文は8/1および8/4に提出させているが、以下の文章は8/4授業のものである。「演じる」の感想が、8/1ですでに書かれていたため、ほとんど登場していないのはその為である。

なお第2回76名に対しても同様の感想文を提出させたが、紙数の関係で紹介を省略する。¹⁵⁾

(1班)

1・とても楽しい授業でした。遊びを通して普段話すことのないような人たちと、多くの意見をかわすことができましたし、他の人の考え方について知れた事がとても良かったです。三日目の授業で一番深く「遊び」について考えて、先生が行っていた指示の意図について班で話し合っ、将来自分も教師になったら、「生成の体験」をさせ、豊かな感情の子どもを育てたいです。大学生でも特別活動を実際に体験し

てみて、たくさんの気づきもあり何よりとても楽しかったです。大学生にも大切な体験なんだと驚きました。(K男)

2・新鮮な内容で今日も満足することができました。特別活動の研究では、実際の特別活動の時間のような子ども主体として参加することができました。知らない人たちとの班づくりなど少し戸惑ってしまいましたが、今思えば良い成長になったのだと思います。(T男)

3・三日間、本当にあつという間でした。夏休みの講義ということで、正直最初は1~4限通しは長いかなと思っていました。しかし、始まってみると、一時間一時間の内容が濃くとっても充実した三日間となりました。また、他の講義とは違い、新井先生が私たち学生に指示をだして一方的にやさせるのではなく、一から学生たちで考え作り上げていくというスタンスで、こちらも自主的に考えを深めることができました。実践的な学びの濃い三日間でした。私も近い将来先生になって、子どもを信じ、互いの信頼のもと子どもたち自身で考え、工夫することの大切さを子どもが実践的に学ぶことができる特別活動の授業を一緒にしていきたいです。(T女)

4・3日間、頭も使って体もたくさん使いました。今日の矢野論文を読んで考える時間では文章がとても難しくて班員全員で四苦八苦しましたが、なんとか読み進めることができました。自分たちが企画したゲームもやりました。MCは緊張しましたが、クラス全員でできたことがすごくうれしかったです。大学生のうちにこのような体験ができて本当に良かったです。(K女)

5・3日間×4コマとびっしりの予定で初めは大変そうだと思っていましたが、自分たちで企画したり他の班の考案した遊びが思いのほか楽しくてあつという間の3日間でした。3日目が終わるころには班のメンバーとも仲良くなり、すごく充実していたと思います。外に出て遊んだり体をつかったり遊びも全力でやり、論文の読み取りや話し合いにも真面目に取り組んだり、内容の濃いものでした。とても勉強にもなったと思います。大学生でもこんなに真剣に全力で遊べる仲間はとても貴重で、この学科だからできるものだと思います。本当に良かったです。(S女)

6・久しぶりに行なったレクリエーションやお別れ会は、卓上だけで教育論を勉強していた自分にとって忘れ

15) 受講生のそれぞれの文章は、明らかな誤字は修正し、また、文末に多くみられた私への謝辞的文章は可能な範囲で削除した。他は原文通りである。

かけていたものを思い出させてくれるものになった。子どもにとって大切なものは、心から遊んでいる「今」を感じるということだと感じた。久しぶりにあった仲間、初めて見る人にもこれだけ楽しく活動的だったことは、今後の自分にとってとても役に立つと思う。(K男)

- 7・この3日間を通して、特別活動の意義を知ることができたと思います。また班での活動でグループの絆を深めたり、論文読解のときにいろいろな意見を交換をして新しい考え方を発見したりすることができてよかったです。最初は初対面の人等もいるグループで不安もありましたが、すぐに仲良くなって、協力し合える教育学科のメンバーの素晴らしさを実感できる3日間でもありました。(Y女)
- 8・1～5限の座学かと思っていました。しかし良い形で予想が裏切られ、自分たちで考えて意見や論文の中身を深めたり、自分たちが楽しいと思える遊びを考え、皆で遊んだりと実感を伴って学ぶことができました。この授業を受けて自分が現場にいたらこうしたい、あしたいというビジョンが持てました。6月から教育実習で子どもたちは本当に遊ぶことが大好きで現場の先生方もそれを理解し、子どもたちの遊びたいという気持ちを上手に誘導していたのを、この授業の各班の遊びをやっていく中で思い出しました。とても実践的で体験的な授業だったと思います。この授業を受けて、特別活動は、子どもたちの心に働きかけ、成長を見守り、ときには手助けする授業だと学びました。途中から授業ということ忘れて全力で遊びを楽しめました。(N女)

(2班)

- 9・3日間でグループの人と少しづつうちとけていき、3日目の今日はだいぶ自然にはなせるようになりました。大学の講義からもわかるように、なかなか人と話ができない私でも、「遊び」を通して、自然に仲良くなれたので遊びの持つ力はすごいと思いました。また、なかなか一つの話に対して、議論する機会がない中、この講義ではすっかり話し合うことができて、とてもおもしろかったです。(S男)
- 10・今日は論文、レク、お別れ会を行ないました。論文は少し内容が難しかったので大変でした。しかし班員と協力し、様々な意見が出たのでよい話し合いになりました。レク、お別れ会などを実際に体験することで特活がどのようなものなのかを身近に感じる

ことができました。(M男)

- 11・3日間での集中講義は初めてで同じ講義を四時間続けるのは大変だと思っていたが、毎回やるのが違う上に班での活動であったので、楽しかったです。少し大変だと思ったのは課題で、次の日にやるのは難しかったと思いました。でも楽しいことが多かったです。お別れ会をしたのが小学生ぶりで、大学生になってからやるのだと大分考え方が違うなと思いました。(Y女)
- 12・3日間、とても楽しく活動できました。教師になったら役立つことを多く学ぶことができました。活かせるようにしていきたいです。教師のあり方も知ることができ、子ども主体に、教師は子どもをサポートすることを大切にしていきたいです。(K女)
- 13・話したことないたくさんの人と話すことができたので、とても貴重な経験になりました。特活について、あらためて考えるいい機会になり、遊びの楽しさや大変さもあらためて感じました。こんなにアクティブな授業は初めてだったので卒業前に経験できてよかったです。(A男)
- 14・3日間、授業を受講しての感想は、率直に楽しかったです。班の仲間と3日間、いろんなことに取り組みました。4年生である為に少々の緊張や不安はありましたが、同じことを協力し合い、相談し合い、励まし合うことで関係は深まり、自分の思いもしっかり伝えることができるようになりました。「ああでもない、こうでもない」と意見が対立したときもあれば、共有することもすべてが楽しかったです。生の大切さ、連帯の素晴らしさを実感しました。この機会を無駄にせず、関係を大切にしていきたいです。(S女)
- 15・矢野論文について班で解釈をそれぞれ話し合い、学びについての理解を深め、授業らしいことをした反面、2、3時間目は活動的な遊びと非常に濃い時間でした。また、自分たちが実際にこのような授業を受けたことで、自分の壁を溶解できた気がします。(O男)
- 16・この3日間を通して特別活動のあり方はどのようなものなのか、子どもの可能性をどうやってのばすのか、教師としての役割がわかった。グループや全体を通して、ゲーム等の活動がとても良かった。大学に入って初めての活動だったので新鮮でやりがいがとても感じられた授業でした。(S男)
- 17・3日間この授業を通してさまざまな活動をしてきた。

その中で「遊び」の重要性について理解できたと考える。今までは「遊び」というと授業や勉強とは正反対なものであると思っていたが、活動をした上で、そうではなく、経験として自然に試行し行動するといったことが学べるのを実感した。また、グループで何かを企画するということの大切さについて学習できた。(H男)

(3班)

- 18・けんとはなかなかうまくできなかつたので鬼が誰なのかをきちんときめておくべきだとおもった。どのようにすればより有益な遊びになるかをきちんと考え、想定しておく必要があると思いました。楽しさの中にルールも必要だと思いました。(O男)
- 19・3日間自分たちで積極的に授業に参加することができたとと思います。とても楽しかったです。夏休みに授業ということで最初は嫌だなど思いましたが、私たちに積極的に参加する授業をしてくれた先生にはとても感謝ですし、机に向かってばかりでなく実際に実践してみる楽しさや難しさを感じることができました。こんなに参加する授業は初めてで本当に楽しかったです。この授業で学んだことをこれからの自分の学びにつなげていきたいです。(S女)
- 20・夏休みの講義ということ、1限から4限までが3日間(1日休みはあったが)ということで、出席などがグループのメンバー同士心配していましたが、無事全員で乗り切ることができました。授業自体に先生の考えの土台となっていると感じられる要素が満載だったと感じました。自分たちも、大学生レベルで遊び、溶解体験をすることができたし、またそこでの友人とのコミュニケーションや関係性を広げることができている様子はどこか暖かいものを感じとれました。(S男¹⁶⁾)
- 21・集中講義という形で3日間連続で受講し、今までにない形の授業で率直に楽しい面白い授業でした。班で意見を出し討論し、1つの考えを生みだしたり、1つのものを完成させられたことはとても良い経験になりました。また、自分には思いつかなかつた意

見を他者から取り入れさまざまなことを得られる授業でした。ここで得たことを今後いかせていけたらいいなと思います。(T女)

- 22・3日間、今までにないくらい活発な授業をした。自分たちでシミュレーションを考えたり、遊びの企画を皆に提示したり、教師として必要な資質を磨くのにすごくよい体験になった。また、友達の意外な一面をみることができたり、よいところを発見したりできたりと、自分の成長につながる他者の長所を見ることができた。(E女)
- 23・3日目、とても眠くて最初は辛かったが、遊びをやっている時は本当に楽しかったです。久しぶりに身体を思い切りつかい、心の底から楽しく遊べてすごく楽しくて仕方なかったです。私は今ゼミの論文で「子どもの遊び」をテーマに、昔の遊びの変化や外遊びをする子どもの減少原因などを調べています。私は子どもの頃に川に飛び込んだり虫をつかまえたり、土手でソリをしたりと勉強よりもたくさん遊びをしていました。やはりその時もそうですし、今やっても本当に楽しいので、将来教師になった場合、このような「生成の体験」を味わってもらえるような授業やクラス作りをしたいとあらためて思いました。(Y男)
- 24・特別活動の研究はどういった意味なのだろうか、3日間を通してよく学ぶことができたと思います。机上の学びと遊びでの学び、二つを通して班員はよく議論をし、どういった結論に至るのか、話し合いの中で意見が交わり、それぞれが自分の中になかった意見に耳を貸し、感銘を受ける。そうしたのも生成の場だったと思い、この授業の中に特別活動の可能性を感じることができました。集団活動の場は、今のいじめの台頭するこの時代で、安易な集団がくめるかどうかは私がもし教師の立場だったらとても迷ってしまいます。集団活動の望ましい形というのは、なかなか実現の難しい課題だと感じます。よき人間関係をつくるための特活なのか、よき人間関係をつくってからの特活なのか、なんだかとても難しいです。(T男)

(4班)

- 25・今回の集中講義ではさまざまな体験をしました。一日目の「演じる」や2日目、3日目の遊びなど非常に楽しかったです。やはり「楽しい」という感情は非常に重要であると思います。3日間の活動を通し

16) 15年度前期新井担当の「特別活動の研究(中高)」を受講した学生の一人。同様の学生は、48・A女、54・I女の3名である。劇団員でもあるS男は、この夏の本授業でも「鬼の大将」となり、班員の先頭に立ち、楽しそうに演じ、踊っていた。私の考えの「要素が満載」の本授業であると指摘する彼は、私のこのような「芝居っ気」や意図を見抜き、かつ生みだされた“場”を“楽しむ”頼もしい存在の一人であった。

- て一番鮮烈に感じたことでした。(O男)
- 26・班単位での活動が主だったので、話し合いや討論がとてもしやすく、リラックスをして授業に参加することができました。自分が今まで関わったことのない人たちとたくさんの交流をすることができ、とてもうれしかったです。また実際に自分たちで活動をしてみることでそこから学べることを多く吸収することもできました。(S女)
- 27・私はこの講義を通して、人と何かを作り上げ、達成する喜びを身をもって体験することができました。実践記録や論文を読み、知を深めること、頭を使って考えを交換し合うことも大切だが、実際にやってみることで、百聞は一見にしかずであった。固執した考えでなく、提示されたもの、ことに対し皆で改良していく。この過程こそが大切であり、ここに深い学びがあると見いだすことができた。3日間という長いようで短かったこの時間で班員とも息を合わせ意見を交換することができた。大人でも子どもでも、何かを作り上げることに年齢やその他のちがいは関係のないものだった。とても楽しく学びました。(O女)
- 28・3日間の特別活動の研究の授業はさまざまなことを行い楽しかったです。班活動が多く、その中で特別活動の意義などが少しわかりました。授業を行っていないようであったという間でした。矢野論文は難しく最初はわかりませんでした。グループで読み深めていくとだんだんと理解できていきました。一人ではなくてグループ活動っていいなあと思いました。(N女)
- 29・全体の遊びは楽しんでできたし、まったく話したことのないような人ともコミュニケーションをとれてよかった。班全員でクリアするゲームも協力しながらやるのがとても良かった。さまざまな遊びを知れて、直かつそれを実行するときに気をつけたほうが良さそうなこと、どんなレベルがあっているか等勉強になった。授業を受け、参考資料を読み、自分の中でどんな特別活動をしようかという想像をより膨らませることができた。(N女)
- 30・この授業を通して特活の活動はどういうものなのかわかりました。班のみんなでプレゼン内容を考えたり、実践記録について読みを深めることができずごくおもしろかったです。意見交換していくと、1人ひとり読みがちがっていて、たくさんの意見が聞けておもしろかったです。みんなで演劇をしたり、
- こどもにもどったみたいに遊んだりすることができて、楽しく特別活動について学ぶことができました。(T女)
- (5班)
- 31・本授業を受講して特活がどのような内容で、教育においてどのような可能性を持っているのかを考えることができたと思う。自分たちで遊びを考えたり、他班の遊びを体験するのは楽しかった。3日間という短い間ではあったが多くのことを学べたと思う。(O男)
- 32・藤本先生の授業内容とまったくちがいが、最初はとてもとまどいました。座学とちがいが、自分の身体で体験的に学ぶということができました。実践記録ではさまざまな先生の記録を読み、たくさんの実践を知ることができました。また、その実践をみんなで検討することにより、より考えを深めることができました。しかし、いまだに特活について明確な答えは出ていません。これからの経験(ボランティア)を通して答えを見つけていきたいです。(Y女)
- 33・特活という時間がどういうものなのかという根本的なことを学びました。何を大切に、児童に学ばせるのかを考えるのは同然ですが、あまりしぼりをつけず、児童を主体としてやるやり方も大切だと思いました。普通の授業とはちがった、児童の可能性をひきだせる特活を将来どのように進めればいいのかという指針もできました。また、人は何歳になっても遊びは楽しいものではないかと思えます。ノリが良い悪いもありますが全力で何も考えず遊んで疲れることは心地よくて、忙しい人にこそ味わって欲しいと思いました。(S男)
- 34・3日間、この授業を通して、周りは正直言ってあまり話したことがない人ばかりと一緒にだったが、教育の人たちは温かい人ばかりでとても話しやすく楽しかった。さらには楽しいばかりではなく、論文を真剣に読み合い、意見を出して、お互いを高め合うことができた。自分が教師になったとき、また子どもたちにどう学んでほしいかを考え、かつそれを楽しくできるよい機会となった。(U男)
- 35・一番初めの課題の論文は、とても難しかったです。みんなで話し合っただけで答えを出していくのはいいことだなと思いました。いろいろな人の意見が聞けて良かったです。レクでは、進行役側の立場をつとめることの難しさがよく分かったのでは、細かいところ

まで注意することが大切だなと思いました。今回の授業を通して、特別活動の持つ可能性やそれがどのようなものなのか、ということについて知ることができました。この3日間は頭がパンクしそうなほど充実していてとても楽しかったです。(Y女)

- 36・今日は遊びを発表しましたが、時間配分が難しかったです。昨日までは楽しんでばかりだったので、しきるのは大変だと感じました。論文を読んで班で深めましたが難しいところがいくつかあってとても良い経験になりました。お別れ会もあっという間に終わってしまい、前期やりきった達成感にも包まれました。(Y女)

(6班)

- 37・今日はお別れ会を運営してみて、みんなを楽しませるために工夫することで6班内の集団意識も持つことができたと思うし、他の班をみてもジェスチャーゲームで人に伝えようとする様子が多く見て取れたのでよかったですと思います。とても楽しい授業でした。(H女)
- 38・この授業でやったすべてからだ楽しんでいなくても考えたり学んだりする事ができるのだなと感じた。(O男)
- 39・受講して今まで受けた授業とはまったくちがいで動いたり考えたりとても活動的な授業であってとてもおもしろかったです。最後にやったお別れ会の企画も成功したみたいでとても楽しい活動でした。このように遊びを考えたりする活動的な授業をもっと受けたいと思いました。(M男)
- 40・とてもたのしく、生成の論理を身をもって体験できたと思う。遊びでどのような子どもの心が育つのか、集団を上手く作っていくのかが、体験した事によってより実感する事ができた。先生の、授業の皆の意見を優先、開放的に発言させる、という構成は、指導要領でみた特活らしく、参考になった。(T女)
- 41・本日はお別れ会を運営させて頂きましたが、レクの準備から進行など班内でしっかり話し合い、無事に終える事ができたのでよかったです。主に特別活動を自分たちで考え、実践記録とも関連させることによって学習を深めることができる講義であると感じました。(A男)
- 42・交流したことのない人たちと班を組んで新鮮でした。班ごとや全体でした遊びはどれも面白くて、とてもいい活動でした。特に絵を完全にコピーして書く

ゲームやジェスチャーゲームなどは盛り上がったし、大学生にちょうどいい難しさと良かったと思います。自分が先生になったときに子どもが自主的に動くのはとても難しいと思いますが、それができるように頑張りたいです。(O男)

- 43・3日間の集中講義で普通の授業よりもとても濃い授業を体験することができました。講義というよりも活発な活動をしている様で楽しく受講することができました。班活動も多く知っている人知らない人でも交流が深めることができ、とても良かったです。最後の別れの会では私たちの班の案が採用されて不安でしたが楽しんでもらえている様だったのでよかったです。(B女)

(7班)

- 44・「為すことで学ぶ」ということの実感をした。論文を読んだことで、遊びに没頭することができたし、その意味を知ることができた。この体験を子どもにさせてあげたいと思った。(S女)
- 45・初め、集中講義と聞いて座学だけだったらやだなと思ったら、たくさん動き回る授業でとても楽しかった。班活動はすべての時間が短く、話し合いが深まらなかったのが残念だった。レクを考えているときに、意見をいう人と言わない人がはっきりして言わない人を置いてけぼりにしてしまった。レク中に少しイライラしてしまったのも申し訳なかった。他の班のレク中に班内で団結することができて自然と会話と笑顔が増えてうれしかった。またこの班に会いたいと思った。(W女)
- 46・集中講義を受け、特別活動とはどんな授業なのか全くわからなかったが理解することができた。授業は一日に4コマもあり、集中できるか不安だったが、とても楽しく受けることができた。今まで教育学科やサークルなどでレクをしたことがあったが、企画し全員で楽しんでもらおうとすることはとても難しかった。私の班での遊びはあまり成功したとはいえなかったが、成功させることよりも、それまでの過程で班で協力することや、人を理解することができたのでどの班も良い学びができたと思う。(S女)
- 47・3日間を通して、班の人たちと議論したり協力して遊びをつくりあげたりしてきましたが、今まで受講した講義では経験したことのない、講義ではないような雰囲気、新鮮でした。遊びを考えるということは思った以上に頭を使うのだとわかりました。知

らない人と話し合って協力して何かをするということとはとても貴重な体験になりました。(U女)

48・3日間が一番ためになったと思うのは矢野論文の合わせ読みでした。中高のときは私が一人で解釈したことを述べて終わりだったのですが、小の集中講義では、みんながそれぞれに解釈したことをみんなで共有することで、さらに考えが深まったり、自分では理解できなかったところがスルスルと納得できてみんなで学ぶことの大切さを改めて感じました。中高のとき読んだ矢野論文は本当に半分以上理解できていなかったのが、今回の読み合わせで、本当に学ぶことが深まりました。それだけで来てよかったと思いました。中高と小合わせて特活お世話になりました。(A女¹⁷⁾)

49・3日間と聞いて最初は知らない人ばかりで不安がひどかったが、皆がとても温かく話し合いにも皆積極的に参加できていて普段の自分ではない自分が3日間で出せたと強く感じている。そのような面でも班は7で良かった上にととてもためになる3日間だった。(Y男)

50・最初の感想にも書きましたが、知り合いがいない中、グループ活動を通して知り合いが出来たことが私としては一番うれしかったです。今後の授業でもここで得た知り合いと協力していきたいです。印象に残ったのは初日の演劇です。ここからこの全班の結束がより強くなったと感じました。また、3日目の矢野論文を生成の場のチャンスとして捉え、より良い活動にするにはどうしたら良いかを今後とも考え続けていきます。この話し合いはもっと時間が欲しかったです。(O男)

(8班)

51・3日間の集中講義もあっという間に終わってしまいました。劇や遊び、お別れの会、どれも楽しく参加することが出来ました。“遊び”というものを子どもたちに提供することは多々ありましたが、自分たちが遊ぶということはあまりなかったのも、とても新鮮であり、またいろいろな発見がありました。(H男)

17) 前期新井の「特別活動の研究(中高)」の受講生であったA女は、すでにこの矢野論文を読んでいた。(中高)の私の平常授業では、このような班活動としての論文読みを15回中1回は入れている。この矢野論文を取りあげたのは14年度と15年度の2年間である。

52・「特別活動の研究」の授業ということで、教師として実際にどのように働きかけるのかということ講義で学ぶものと考えていた。先生が言っていたように小学校の教員は考えるよりも行動するのが早いということを遊びのなかで感じることが出来た。特別活動ということで評価が出来るものではないので、子どもたちに自由に想像し、感じ取ってもらえるような環境を整えられるような教師になりたい。(S男)

53・今回、4年生としてこの授業に参加してまったく話したことない人やみたことない人たちとも、いろいろ交流できてよかったです。特別活動は、普通の教科では学ぶことができない体験ができるとおもうので、教師になった際には子どもたちによって良い特活となるよう学んだことを活かしていきたいです。(N男)

54・私は中高の方の特活も取っていたけれど、小学校の方も十分楽しかったです。先生のおっしゃっていたように教育学科はノリがよく。一人一人が積極的に取り組み、協力してできていたので良かったと思います。大学の講義にはこのようなグループ学習形式のものが少なく、グループで話し合い、それを全体で共有、質疑応答をするやり方は新鮮でもあり、やりやすかったです。夏期休業中にわざわざ大学までくるのはきっと皆大変な思いをしたと思いますが、最後には達成感に満ちたような顔をしていました。私自身もこの3日間、大学に来て本当に良かったです。(I女)

55・今日は、お別れ会をして、とても楽しかった。ありがとうカードでは、班のみんなと「ありがとう」を共有し、寂しさがつりました。ゲームでは、高難易度ジェスチャーゲームが楽しく、意思疎通ができないことを楽しみとし、おもしろおかしく団結しました。特別活動とは、自主的にやることに意味があり、何とない遊びでも何かを得たものであったと思いました。今日のお別れ会では、この集団の団結があり、生まれ、他の授業では感じないものがあつた。3日間、短い期間でしたが、とても学びになりました。「特別活動」は自分の好きな学校活動の1つになりました。(S男)

56・はじめはこの授業で一体何をするのだろうかと少し不安を感じていたが、実際に12時限分全ての授業を終えてみると、とても楽しく印象深く実のある授業であったと感じている。ここ数年はボランティア

活動がほとんどできていないので自分たちでレクリエーションを考えて実行するというのも、とても久しぶりに行なった。自分が考案した遊びが採用され、周りの人から「あれが一番面白かった！」と言ってもらえた時は本当に嬉しく自分たちで遊びを考えて運営するということの楽しさを実感した。授業の中でいくつかの実践記録を読み、最終日に矢野智司氏の論文を熟読したが、内容につながるような所が多くあり、とても興味深く感じた。(S男)

- 57・最初は遊びばかりやる不思議な授業だと思ったが、生成と発達に関する論文を読み、その理由が少しわかった気がした。ただ、その論文が難しく、正しい理解ができていないのか、非常に不安が残っている。(E男)

6 おわりに

はや1年が過ぎた現在、これらの感想文をひさしぶりに読み返し、あの場が持っていた空気感を私は再びに思い起こした。

受講生たちは、じつに生き生きと活動していた。パフォーマンスがパフォーマンスを呼び起こす、そのような場が、本授業のさまざまな場に出現していた、と私は思う。

遊びから特別活動を照射し、その持つ可能性を追求する。授業のこの基本スタンスに、今回の受講生たちは、大きな応答を返してくれた。そう私は確信する。

現在も私は平常授業の中、遊びを手がかりに、特別活動のもつ意味や可能性について考察する授業を試行、展開している。

その試行、展開のたびに、落ち込んだり、あるいは喜んだり、そうしながら、大学での授業のありようを求め試行錯誤しつづけている。

だからこそ、この15年夏の一瞬の出来事は、私にとってもまた忘れえぬ思い出となった。

そうか、この夏の出来事は、私にとってもまた、一つの特別活動的活動であったのだ。今にしてそう思う。

このような思い出を残してくれた本授業の受講生たちに再びの感謝の気持ちを贈り、本報告を終わりにしたい。